



個人的にはよく分からない鮎の味

山本 賜

「それを言っちゃあおしまいよ」と言いたいところだが正直が心地いい。みんな通ぶって褒めているが本当に分かっているのだろうかという疑問もある。



おひさまの角取れている今朝の秋

山下正純

真夏の陽射しは暑いというより痛い。それが暦の上とはいえ秋になった途端にやわらいだように感じた。尖っていた太陽の角が取れたという詩心。



鈴虫の籠を振るなど言うたのに

八塚一青

鈴虫の都合も考えず、子どもは籠を振って刺激を与えて鳴かせようとする。金魚鉢もしかりで、反応を見たいものなのである。人間もまた同じ。



秋の風ひとさし指でなめてみる

吉川正紀子

花の時期の風は甘く柔らか。夏の風は湿って潮味。秋の風はと指に吹かせて舐めてみたのだ。何事も体感して確認するのが詩人なのである。秋の風ひとさし指でなめてみる。



嫁と夫半分ずつの缶ビール

田中早苗

嫁も夫も元は他人だが、今はもうすっかり家族である。生活の中での苦楽が缶ビールに象徴されている。ほっと穏やかな時間が流れる夏の夕べよ。



小旅行猪町を闊歩する

岡田廣江

昨今、人と猪の関係は農作物への獣害で悪化の一方だが猪にしてみれば悪意はない。街中へ迷い出ているのも興味津々ちょっとした旅行気分なのだ。